

< 研究成果の紹介 >

小売業者による鉢もの・花壇用苗もの花き産地評価

経営部

1. 成果の内容

花き類の需要はガーデニングブーム等により増大傾向でしたが、近年の景気後退・低迷の影響を受けて消費は伸び悩んでいるとともに、消費者の花きに対するニーズが変化してきています。そこで、人の考えを数量化できる手法により、鉢もの・花壇用苗ものについて消費者のニーズに直接影響を受ける小売店（三重県内の生花店、園芸店および名古屋市内の園芸店）の意識を調査分析しました。

鉢物・花壇用苗ものの仕入れにおける評価基準は、園芸店、生花店ともに「品質の良さ」を非常に重視し、「価格が安い」や「仕入れ数量」に比べると2倍くらいの重要性があると考えています（図）。

さらに、「品質の良さ」の中では「傷み・病虫害がない」、「新鮮・花もちが良い」を、「価格」の中では「値ごろ感がある」を、「仕入れ数量」の中では「継続・安定した仕入れができる」の項目を重視しています。

一方、今後の方向性の調査では、園芸店は花壇用苗ものの取り扱いを、生花店は鉢ものの取り扱いを重視していることが特色です。

なお、小規模園芸店、中規模園芸店は市場経由の仕入れ、大規模園芸店は産地契約（農家から直接）の仕入れを重視していることが明らかになりました。

2. 技術の適応効果と適用範囲

今後、消費量の低下や卸売市場の大型化の進行による産地選択など、花き生産者には益々厳しい状況になると考えられます。そこで、小売業者が重要視している「高品質」、「値ごろ感」、「継続・安定性」に一層重点をおいた生産を行う必要があります。

また、前年の卸売市場に対する調査では「品質」、「継続・安定性」などで「共同集出荷」が高い評価を得ていることから、産地の組織化への取り組みが益々重要になってくると考えられます。

3. 普及・利用上の留意点

生産者が消費者ニーズや花き流通の変化の動向を十分把握し、戦略的な対応をしていくことが重要になってきます。

（経営担当 木村 友香）

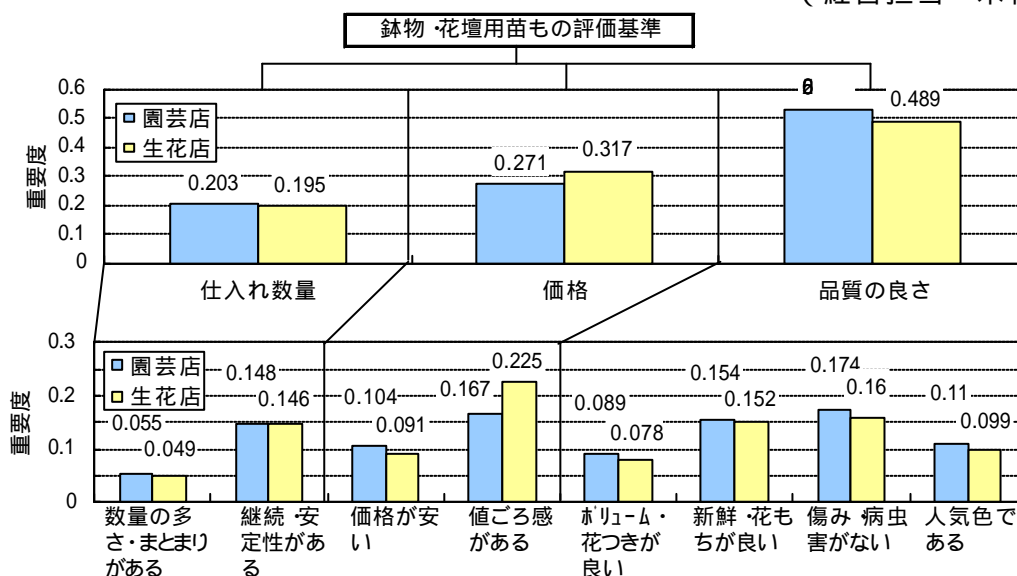


図 AHPによる小売業者における鉢物・花壇用苗ものの評価基準と重要度

*) 三重県内と名古屋市内の園芸店および三重県内の生花店にアンケートを郵送したところ、それぞれ82社(26.1%)、61社(28.8%)から回答が得られ、整合度、整合比が0.15以上の回答を除くとそれぞれ20社(6.4%)、12社(5.7%)であった。